

2019 年度 A O 選抜 スポーツ健康科学部
「グローバル・アスレティックトレーナー方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数、実施目的等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
スポーツ健康科学科	16	5	2

本入学試験の目的は、スポーツ健康科学部と East Stroudsburg University of Pennsylvania・Spalding University とが共同で開発した「GAT プログラム」への参加を希望する生徒に対し、スポーツ健康科学部での学びを国際的に発信する意欲と素養や、基礎的な教養および知的好奇心が優れていることを確認することです。それら进行评估するために 2 段階選考を行い、第一次選考では、志願票、調査書、エントリーシート、課題論文等の記載内容を基にした総合評価、第二次選考では小論文試験と個人面接・口頭試問の総合評価によって、合格者を選出しました。

2. 試験内容

(1) 第一次選考

課題論文では、以下の 2 題をテーマとして設定しました。

- ① 「スポーツ健康科学部へ入学後、アスレティックトレーナーとしてグローバルな視野に立ち、国際的な舞台においてリーダーシップを発揮するために、これまでの活動や経験を踏まえて、具体的にどのような内容の学びと活動を推し進めたいと考えているか」
- ② 論述した内容を 50 語以内でまとめた英文の表記

(2) 第二次選考

① 小論文試験

海外の雑誌記事 (Chapter 7 The Muscular System: The Control of Muscle Mass, ACSM's Advanced Exercise Physiology, p.161, 2006.) を読み、3 題からなる問いに解答する小論文試験を実施しました。

【問 1】

運動刺激に対する骨格筋の肥大について本文中の事例も踏まえながらあなたの意見を述べなさい。(400 文字以内)

【問 2】

日常生活において骨格筋が萎縮する機序とその予防方法について、本文中の事例も踏まえながらあなたの意見を述べなさい。(600 文字以内)

【問3】

【問2】 であなたが論述した内容の要旨を、50words 以内の英文で表記しなさい。

② 面接試験・口頭試問

出願書類を基に、個人面接を実施しました。

また、口頭試問では、高等学校の保健体育科の教科書を基に出題しました。

3. 出題の意図

(1) 第一次選考

以下の点について確認するために出題しました。

- ① 将来を見据えたうえで、立命館大学スポーツ健康科学部及び GAT プログラムでの学びを志望する明確な理由
- ② 学びの意欲や、入学後に推し進めたい正課内・外の活動についての具体的な考え
- ③ ①②について、これまでの活動や経験を踏まえているか
- ④ 文章の論理性・説得性、適切な表現力と文章の構成に関する能力（入学後に大学で学ぶために求められる力量を備えているか）

(2) 第二次選考

以下の点について確認するために出題しました。

① 小論文試験

- 高校での学習を踏まえ、英語で書かれた課題文を正しく読むことができるか
- 要点を的確に読み取り、文章表現できているか。また自身の意見を論理的に論述できているか
- 語句・漢字を正しく使用できているか
- 「グローバルな視野をもつ」という観点から、自分の考えを英語でまとめ、表現する力量を備えているか

② 面接試験・口頭試問

- 将来を見据えたうえで、立命館大学スポーツ健康科学部及び GAT プログラムでの学びを志望する明確な理由
- 学びの意欲や、入学後に推し進めたい正課および正課外の活動についての具体的な考え
- グローバルな視野を含めた将来の展望を有しているか
- 上記3点を適切に表現し相手に伝えられるコミュニケーション能力を備えているか
- 高等学校で学ぶ「保健体育」のうち、事前に提示した範囲に関する内容を理解しているか

4. 評価のポイント

(1) 第一次選考

上記の「出題の意図」に基づき、評価しました。

米国アスレティックトレーナー(ATC)の役割、本学部 GAT プログラムの特色を十分に理解し、それを踏まえた明確な志望動機を明解な文章で記述出来ているかを評価の重要なポイントとしました。

(2) 第二次選考

以下の点を評価のポイントとしました。

① 小論文選考

上記の「出題の意図」に基づき、評価しました。

課題とした英文を的確に読み取りどの部分が要点であるかを踏まえた上で、自らの意見を明解な文章で記述出来ているかを評価の重要なポイントとしました。

② 面接試験・口頭試問

面接・口頭試問については、上記の「出題の意図」に基づき、評価しました。

5. 解答状況

(1) 第一次選考

課題論文における、論題の最も重要なポイントは「具体的にどのような内容の学びと活動を推し進めたいと考えているか」という点だったのですが、「これまでの活動や経験を踏まえて」という点に大部分の記述を割いている答案が散見されました。また、アスレティックトレーナー(ATC)の職務や GAT プログラムの特色をきちんと理解していないと見受けられる回答がみられました。課題論文等については、何が問われているかを整理し論理的に記述することが必要です。

(2) 第二次選考

小論文については、スポーツ科学に関する英文の記事を読んだ上で質問に対して論述するという形式であったため、合格者と不合格者の間では、英語の読解力と日本語の表現力に大きな差が見られました。また英作文の能力にも差がみられました。本選考においては、一定の英語力を礎としつつ、スポーツ健康科学分野に対する幅広い関心や理解が必要です。

面接試験では、本学の GAT プログラムの具体的な内容を理解した上で、どのように本学で学び、その後のキャリアを築き上げていくかについて、説得力のある説明が出来た受験生と、GAT プログラムについての理解が十分でなく、具体的にどのような学びを実践したいかについての説明が不十分な受験生に分かれました。

口頭試問では、1 問目もしくは 2 問目の質問に対して、どの受験生も各自の教科書で学んだ内容を基に、適切に回答を行っていました。

6. 次年度受験生へのアドバイス

本試験は、入学後スポーツ健康科学の分野において、グローバルな視野に立ち、国際的な舞台において活躍することを目指し「GAT プログラム」への参加を希望する方へ向けた入試です。そのため、本試験の突破には、「GAT プログラム」そのものに加えて、同プログラムを通して育成される人材像や、それらを取り巻く社会的背景等に関心を持ち、理解を深めることが大切です。また、上述の通り、第一次選考・第二次選考共に、論題をよく理解し、求められていることを論述する練習をしておく必要があります。

さらに、「GAT プログラム」へ参加するためには「英語」の高度な運用能力が不可欠であり、入学後、通常の大学生よりも英語の勉強を多く行う必要があります。その為、高校生の段階から「英語」というものへ慣れ親しんでおくことも重要です。

以上